

2017～2018 年度 国際ロータリーテーマ「ロータリー：変化をもたらす」

第2580地区

東京セントラルパークロータリークラブ

The Rotary Club of Tokyo Central Park

Weekly Report

2017～2018年度 スローガン

「温故知新 - 先人に学びロータリーを楽しもう」

第29回（通算1665回）2018年4月13日



本日の例会



18:00	開会点鐘・挨拶 ロータリーソング 季節の歌 会長挨拶 来客紹介 会長挨拶 幹事報告 委員会報告 ニコニコBOXの報告	東京城北 RC 会長 「我等の生業」 「オーシャンゼリゼ」 東京城北 RC 東京城北 RC 東京セントラルパーク RC 東京城北 RC 東京セントラルパーク RC 東京城北 RC・東京セントラルパーク RC 東京城北 RC・東京セントラルパーク RC	杉山剛正様 杉山会長 白石会長 佐山幹事 橋本幹事
18:30	閉会点鐘 — 懇親会・お食事 —	東京城北 RC	杉山会長
19:20	アトラクション	「フルートと私」	吉川久子氏
20:10		「手に手つないで」	
20:20		— おひらき —	

次週の卓話 〈4/17〉 「美を求める心」 白洲信哉氏

◆◇◆ 先週の例会記録 ◆◇◆

2018 年 4 月 3 日 第 28 回 (通算 1664 回)
開会点鐘 白石会長 27F「エクセレンス」
*ゲスト紹介 名 大隈 廣様(卓話講師)
*ビジター紹介
出席 23 名 欠席 12 名 (免除者 2 名)
出席率 69.69% 補正出席率(3/9) 70.58%

◆◇◆ 幹事報告 ◆◇◆

- ① 5/15 にガバナー補佐椿原様、分区幹事清水様、副幹事飯田様が弊クラブに来訪されます。
- ② ガバナー事務所よりコーディネーターニュース 4 月号が事務局に届いております。
- ③ ガバナー事務所より母子の健康月間に関するリソースが事務局に届いております。
- ④ 東京丸の内ロータリークラブより 5 月 28 日に行われます認証状伝達式のご案内が事務局に届いております。
- ⑤ 2018 年 4 月のロータリーレートは 1 ドル = 104 円です。

第 9 回理事役員会議事録

4 月 3 日 午前 11 時より 27F「アプローズ」に於いて第 10 回理事 役員会を開催しました。

審議内容は下記の通りです。

出席／白石、松林、榛村、小林、牧野、渡辺、富永、萱森、花形、杉本、橋本 (以上 11 名)

1. 3 月度会計報告に関して
榛村会計より報告がありました。
2. 4 月度日程と卓話スケジュールに関して
特に変更はございませんでした。
3. 横田小学校の遊具移転に関して
松林副会長が現校長と移転スケジュールについて調整をする事になりました。
4. その他
 - ① 4/12(木)地区研修協議会に関して
特に変更はありませんでした。
 - ② 4/13(金)城北 RC との合同夜間例会に関して
特に変更はありませんでした。

以上の通り報告いたします。 幹事 橋本国彦

◆◇◆ ニコニコ BOX 報告 ◆◇◆

白石会員:大隈先生、卓話楽しみにしております。
(ワイン同好会・酒粋会合同花見会)
参加したかった。

小林会員:大隈 廣様、本日の卓話を宜しく願
い致します。

杉本会員:誕生日に素敵な花をありがとうございました。

川松会員:妻へのお誕生日のお花、ありがとうございました。かつ本日、早退します。

前田会員:酒粋会、ワイン同好会、小林さん御世話になりました。

橋本会員:○大隈様、本日の卓話よろしくお願い致します。○ワイン同好会参加の皆様、お疲れ様でした。夜景と食事、最高でした。

今週の合計 6 件	30,000 円
今期の累計	932,682 円

◆◇◆ 先週の卓話 ◆◇◆



「私の経歴と『ぶどうのいえ』の歩み」

NPO 法人ぶどうのいえ理事長 大隈 廣氏



小林会員から大隈氏の御紹介がありました

認定特定非営利活動法人「ぶどうのいえ」の大隈と申します。本日は、私共の「滞在施設」の運営活動について、お話をさせていただきたいと思ひます。

お手元に、読売新聞の今年3月4日号の「切り抜き」をお配りしてありますが、皇后さまが、世田谷区の「もみじの家」をご訪問されたことが紹介されています。この施設は、「難病の子供の家族」を対象としたレスパイト（休息）ケア施設で、国立成育医療研究センターに併設されています。建物や設備も立派であり、行き届いたケアがなされる素晴らしい滞在施設です。「難病の子の家族にも光」と見出しが付いていますが、子供たちをケアしてくれる専門スタッフが配置されていて、子供達を預かってくれている間、家族はゆつくりと心身を休めることができる施設となっています。そして、「運営に年間1億8000万円かかり、うち4割は寄付で賄われる」とも報じられています。

次に、私共「ぶどうのいえ」の2017年度の施設利用状況ですが、年間延べ利用者数は2124人、部屋の利用率が31.4%となっています。このところ他の滞在施設が増設されており、その影響もあり、利用者数が漸減しています。年度収支は、総収入が1160万円、支出が1300万円ということで、残念ながら140万円ほどの赤字となっています。収入に占める寄付金の割合は、およそ70%となっています。いずれにしても、多くの企業、個人の方々からのご支援で、今日まで事業を続けてこられ、大変感謝しています。

ところで、「滞在施設」とは、「難病などで、長く入院されている患者さんの看病のために付き添う家族が、病院のそばで寝泊まりする施設」です。ご承知の通り、現在の病院は「完全看護」が基本で、入院中の患者さんは全て病院の方で看護する規則となっています。以前のように、家族が患者さんのベットの傍らで寝たり、病院内で寝泊まりすることは許されません。幼児や乳児の場合も同様で、時間になると母親といえども、病院から帰らざるをえません。そして、翌朝も、看病やお母さんを待っている子供さんのために、決められた時間に病院に戻って来ることになります。2日、3日なら何とかなくても、1週間、1カ月となってくると、どうしても病院の近くに宿泊できる場所を確保しなければなりません。心身の疲れも蓄積し、地方からの方では、医療費の他に、ご自身の宿泊代や食事代、交通費も嵩み、経済的な負担が重く家計にのしかかってきます。

人生で一番辛いことは、長く連れ添った配偶者が亡くなることだそうですが、家族の者が病に侵され、長く入院することになることも同じように辛く、耐え難いことです。まして、それが幼い子供となると、家族の心配や苦しみは如何ばかりかと思いやられます。病気の子供さんの看病が続くうちに、夫婦仲や患者ではない家族との関係がもつれ、家族関係自体が破綻してしまうケースを少なからず見聞きしてきました。子供に対する母親としての本能的な感情や愛情が、夫婦間の^{しがらみ}柵よりも勝ってしまうという現実、他人であるはずの私達もたじろかされることもありました。「我が子」を守ろうとする母親の一途さに勝るものがないことを思い知らされ、また尊くも感じさせられます。

この点は、東京近辺に住まいされている方と地方、特に離島などに住まわれている方とでは、事情は大きく異なります。特に、難病の場合は、地方には専門病院や先端医療を行うことのできる多機能病院はまだ少なく、どうしても、東京や大都市の大病院に入院して治療を受けなければなりません。地方に住まわれている方々は、地元と入院先での生活と二重生活となり、地元に残る家族の負担も、本当に重いものがあります。幸い、その時は退院し、地元に戻ることができても、その後も定期的な検査・検診を受けるために、また毎年のように上京しなければなりません。滞在施設の必要性が強く訴えられたのも、精神面のケアを行うことと、経済的な負担の軽減のための解決策を求めてのものでした。

また、リゾート施設などではなく、難病の家族を看病される方々との繋がりが生じます。患者さんの容態が急変して急に退室されるケースもあり、完治し、退院でき無事に地元へ帰られる方々だけではありません。幼い子供さんが心臓移植のために渡米し、無事帰国して新しい生活を始めて間もなく亡くなられたケースもありました。毎年定期的な検査のために上京し、滞在されていた子供さんが、急に姿を見せてくれなくなるケースもあります。

「滞在施設」によっても異なりますが、私共「ぶどうのいえ」では、基本的にボランティアが運営の全責任をもって務めています。常勤の職員はおらず、理事長、事務局長も週2日の勤務日は、ボラ

ンティアスタッフとして勤務しています。

特に気を付けているのは、滞在されている方々の心情を思いやり、プライバシーを大事にすることで、できるだけ寛いで滞在していただけるような接遇を心掛けています。

さて、私共の「ぶどうのいえ」は、「東京聖テモテ教会」の附属会館で運営されてきた「女子学生寮」が閉鎖されたのを機会に大改築を行い、1995年11月に「聖テモテ愛の家」として創立されました。そして現在では、より幅広い支援を得るために、「NPO法人ぶどうのいえ」に改称し、活動しています。先ずもって、「難病とたたかう子どもと家族のための滞在施設」であり、滞在される皆さんにとって、居心地よく寛げる、東京における「もうひとつのわが家」となることを目指しています。

施設の概要は、滞在室は11室で、最大25人ほどの方に滞在していただけます。バリアフリーとなっている1室を除き、各部屋はバス・トイレ付きのツインが基本で、ビジネスホテル並みの設備となっています。自炊もできるように、共同のダイニング・キッチンが用意されていて、食器・調理用具等も自由に使ってもらえます。

基本的な料金は、1室1日「3,000円」(1室)、「2,000円」(8室)、「1,500円」(2室)で、リネン代として1週600円が別途発生します。ツインの部屋が基本なので、お一人様1000円というのが基本利用金になります。昨今のビジネスホテルの宿泊代との比較では、格安という水準かと思いますが、いずれの滞在施設も、できるだけ経済的な負担を軽減したいということから、こうしたレベルの料金設定となっています。

利用できる方は、20歳未満で入院されている患者さんのご家族の方や外泊を許された患者さんのご家族の方の他、定期検査などで地方から東京の病院に通院される患者さんとそのご家族ということになります。また、滞在室の使用状況に余裕のある場合には、20歳以上の大人の患者さんのご家族も滞在できるように手配しています。

「ぶどうのいえ」の所在地は、文京区の本郷弥生町で、東京大学の農学部に隣接しており、教会の附属の会館内にあります。そもそも「ぶどうのいえ」の名前の由来は、この教会の中庭に「葡萄棚」があり、毎年枝もたわわに美味しい葡萄がたく

さん実ることから名付けられています。「葡萄」は、教会にとっても信仰を表す特別の木なのです。

「アクセス」や近辺の病院については、緑のご案内リーフレットに記載の通りです。地下鉄南北線、千代田線が利用でき、「東大付属病院」をはじめ多くの専門・機能病院への通院も便利な場所にあり、「多くの大病院の近くにある滞在施設」となっています。

さて、最近の医療の発達ともに、幸い院期間は短縮され、退院後に患者さんが病院の外の滞在施設で治療しながら、病院に通院するということもできるようになってきました。そうすると、患者さんと家族とが同室して滞在し、通院治療を続けることができる滞在施設が求められるようになります。いわば、病室と同様の衛生状態が保たれる滞在施設が求められています。国の医療財政の節減の面からも、入院期間の短縮指導が行政から強く要請されていることもあり、この傾向はより一層顕著になっています。単に病院に近いだけでなく、最近では、病院に隣接する施設、さらに病院の中に滞在施設が抱え込まれている施設も出現しています。正に「理想の滞在施設」も誕生しています。

私共の「ぶどうのいえ」は、まだそうした段階までには到達していませんが、これからもさらに進化させて、滞在者のニーズに適合した滞在施設を目指して研究し、実現して行きたいと考えています。宜しくご理解・ご支援をいただきたいと思います。

最後になりましたが、皆様さぞかしご多用中のことと存じますが、是非とも、私共「ぶどうのいえ」のご見学・ご訪問をいただけますようお待ちしております。

また、貴クラブが、東北・岩手県の陸前高田市「横田小学校」への温かなご支援を続けていらっしゃることに感服しております。これからも、世の中を支えていく社会奉仕の働きを、ご一緒に行っていきたいと願っていますので、宜しくお願いいたします。

本日はお招きをいただきまして、誠に有難うございました。貴「東京セントラルパークロータリークラブ」様の一層のご興隆を祈念いたしております。

◆◇◆ 先週の例会より ◆◇◆



4 月のお誕生日・結婚記念日の皆さん
おめでとうございます



皆出席表彰 12 年の富永会員



「映画鑑賞会後記」

鑑賞作品：「スリー・ビルボード」

不条理なクライム・ムーヴィーは、ラスト・シーンのセンスに全てがかかってくる。嘗てフランシス・マクドーマンドが主演したコーエン兄弟作品『ファーゴ』（'96）の愛すべきラストは忘れがたい。妊娠中であつたにも拘わらず田舎町の殺人事件を追う妊婦の刑事役を力演しオスカーを獲得してから 20 年以上が経ち、マクドーマンドが再び屈強な女性を演じる。

今作『スリー・ビルボード』のオリジナル・タイトルは "Three Billboards outside Ebbing Missouri" エビングは架空名だがロゴはミズーリ州を模り、地名という点でも『ファーゴ』と響き合う。マーティン・マクドナー監督は舞台演出家時代から、過激なリアリズムを追求してきたと聞く。確かに舞台の不条理劇なら通用するのであろうプロットが目立ち、映画ファンとしては受け入れにくい。マクドーマンドに二度目のオスカー（主演女優賞）、暴力警官を演じたサム・ロックウェルに初のオスカー（助演男優賞）をもたらしたことから、役者の演技を堪能する一作と呼べるだろう。総勢 14 名で鑑賞後は『ラ・ボエム クアリタ』で懇親会、観客に委ねられたラスト・シーンの行く末を語りあう、有意義な時間となった。参加の皆さん、お疲れ様でした！ミズーリ・ツアーだけは計画しないように・・・！

記/大橋美加会員

田舎町の3つの巨大広告、動物たちを始めとした、物語の鍵を握る大道具や小道具の、脚本とのリンクのさせ方は、緻密で大胆かつ繊細に映画らしい表現を試みようとする努力の跡が見える。しかしながら“社会派”テーマであることが粗筋を読むだけでもわかるにも関わらず、展開力にリアリズムがない。つまり脚本のシーン割りが上手くない。例えるならヌーヴェルヴァーグ作品のように観客の印象に残りそうなプロットの連続という構成で社会派映画を作ってしまったのである。しかも印象に残るショットが伴わないため脳裏にも焼きつかない。それでは辻褄が合わなくなるのも無理はないし簡潔にまとまっているとも言い難い。そんなツッコミどころ満載の完全なるフィクション映画ながら、性犯罪という社会的テーマを直接的描写もなく表現出来たのは、主要キャスト3人の熟練の成果とも呼べる演技力と舞台台本仕込みのセリフの力強さのおかげだろう。とりわけ感情の浮き沈みの激しいジェイソン・ディクソン巡査を見事に演じ切ったサム・ロックウェルはオスカー像を手にして当たり前とも言える演技であった。

記/大谷耀司（大橋会員御子息）

—事務局からのお知らせとお願い—

＊ 例会欠席の場合は、前日までに事務局にご連絡下さい。

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30

例会場 ハイアットリージェンシー東京

会 長 白石 正 副会長 松林 茂

幹 事 橋本 国彦 会報委員長 阿部 亮介

事務局 〒166-0004

東京都杉並区阿佐ヶ谷南 1-34-6 新東京会館

TEL(03)3312-4959 FAX(03)3312-4958

E-mail: info@tokyocentralpark-rc.com

<http://www.tokyocentralpark-rc.com/>